

- ① 相馬中核工業団地西地区
- ② 誘致企業樹脂製造メーカー工場内
- ③ 仙台空港
- ④ 相馬中核工業団地東地区



仙台国際空港へ60分
(46 km)

空と海に

調和のとれた産業の振興をめざして 相馬中核工業団地

相馬中核工業団地は、地域整備公団が手がけている全国二十三の工業団地の中でも、最大級の規模を持っています。本市と隣接する新地町にまたがる臨海型の東地区と、内陸型の西地区からなり、総面積は六三三㊦です。

昭和六十二年三月より造成工事が着工され、東地区が四九九㊦（うち工場用地が三九四㊦）、西地区が一三四㊦（うち工場用地が七四㊦）で、東地区と西地区の第一期造成工事がそれぞれ完了しており、残る東地区の第二期造成工事が平成二十二年までの予定で進められています。

東地区の新地町分にあたる約一七〇㊦は、相馬共同火力新地発電所が占め、一号機、二号機の運転が開始されています。さらに三号機、四号機の増設が見込まれています。この新地発電所は、出力一〇〇万キワット二基の石炭火力発電所で、燃料の石炭は海外から輸入され、年間四五〇万㊦が使用されます。また、石炭灰は、工業団地の埋め立て造成材やセメント混和剤などに有効活用されています。

中核工業団地の分譲については、平成四年四月から開始され、約二十社の優良企業が工場進出を内定しており、うち五社がすでに操業を開始しています。これにより、雇用の拡大と所得水準の向上が期待されています。